

すると益々其氣分を助長して興味を感じるが、けなすと全く不機嫌になつて、やる氣がなくなつてしまふ、これは我々大人にもある事であるが子供には著しい。そこで自分の狭い經驗から云ふならば、若しも子供の想像が教育上思はしからぬ方面に走つた時には體育者自身が之を喜ばぬ態度をとると大抵はそれ以上其のわるい「晝夢」に耽らずに早く現實にかへるものである、消極的方法ではあるが止むを得ぬ事であると思ふ。

子供の自然現象に對しての想像には大抵助長させたいところ思へ禁じなければならぬ場合は先づないと思ふ、人事界の出來事を見聞する所から來る彼等の想像的産出の結果が遊びとしてあらはるる事には随分消極的に出なければならぬ場合が多い、例へば卑近な例として一人が泥棒になり他の兒が巡查になつて追ひかけつこをする遊びの如きである。けれども僅かにせまい經驗から直に人事界、自然界を區別して之に對して斷言する事は

出來ないと思ふ』(大正六年二月)

● フレーベル會例会

△日時 六月八日(第二土曜日)午後一時半より

△會場 東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て

△講演

内外に於ける幼兒保育事業の施設狀況に就て

内務省囑託 生 江 孝 之

右一般傍聽者の來會を歓迎す

大正七年六月

フレーベル會